

AIと読解力

前号「国語教師・布川とアクティブ・ラーニングの視点」では、【「読解」とは、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」ことです。従って、答は一つです。そして、その上に、「解釈」の問いを与えました。解釈は自由です。】とした上で、私が、「唯一解を求める読解」と「解釈の自由」にこだわってきたことを書きましたが、今回は、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」読解力、「唯一解を求める」読解力がいかに大切なのかについて、書いて行きます。

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』という本があります。2018年2月15日に第1刷が発行されています。新井紀子さんという数学者の著書です。新井さんは、2011年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」のプロジェクトディレクターを務め、2016年11月に東大合格を断念します。ロボットの名は、「東ロボくん」。

東ロボくんは、一般的にはAIと呼ばれますが、厳密にはAIではなく、また、現時点において東ロボくん以外も含めて、AIと言えるものではなく、今後出てくる見込みはないそうです。

AIとは、artificial intelligenceの略。人工知能のことであり、知能を持ったコンピュータ(計算機)ということです。つまり、人間の知的活動を計算に置き換えようということですが、コンピュータのレベルがそうなる見込みは現段階では全くないそうです。現在、AIと呼ばれているのは、「AIを実現するために開発されているさまざまな技術」の略であって、本来の意味の「真のAI」ではありません。

東ロボくんが東大合格を諦めたのは、読解が苦手だからです。「読解」作業を「計算」に置き換えることができないからです。皆さん、安心しましたか？安心してはいけません。読解の苦手な東ロボくんは、MARCHには合格できそうなのです。文脈の理解できない東ロボくんより成績の低い人間が8割いる計算になるそうです。

そこで、新井さんは、2016年より、「教育のための科学研究所」を設置し、人間の人間たるゆえんの「読解力」、中高生の読解力を調査する「リーディングスキルテスト(RST)」を実施しました。どのようなテストかと言えば、それは、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」テスト、「唯一解を求める」テストです。具体的問題の掲載は割愛しますが、驚くほど低い読解力の中高生がたくさんいることがわかりました。つまり、教科書が読めないということがわかったのです。

読解力は、中学生では学年とともに向上し、高校生では学年の上昇による読解力の向上は見られなかったそうです。高3生のデータが十分取れておらず受験勉強が読解力向上に寄与するかどうかは不明なのですが、高校では、1・2年生の読解力に差は見られなかったそうです。

読解力は、中学までに伸び切ってしまうのでしょうか。はたまた、高校の授業が読解力を伸ばしていないのでしょうか。ここで、おもしろい話があります。新井さんが指導をした学生に論理的な文章が全く書けない学生がいました。新井さんは、その学生にRSTの問題作成を手伝わせました。「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」テスト、「唯一解を求める」テスト、リーディングスキルテストです。すると、その学生はみるみるうちに文章力が向上して、半年も経たないうちに、とてつもなく論理的な文章を書くようになったそうです。彼は、そのとき38歳だったそうです。私自身も、文学性のかけらもない「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」授業、「唯一解を求める」授業により、自らの国語力を伸ばしたように思います。(私の生徒の国語力も伸びたと自負しています。)

さて、「真のAI」は完成せずとも、MARCHレベルの東ロボくんたちは、さらに進化し、一方では今ある人間の仕事を奪い、他方では今はない新たな仕事、人間にしかできない仕事を生み出します。そして、その新しい仕事、人間にしかできない仕事に就く人たちは、「AIもどき」に仕事を奪われた人では当然なく、「AIもどき」にはない「読解力」、人間の人間たるゆえんである「読解力」に優れた人たちです。

「読解力と国語以外の学力との相関は極めて高い」そうです。学習指導要領では、国語のみならず、すべての教科で言語能力を育成することとなっています。皆さん(先生方)、教科書・資料を読みましよう(読ませましよう、読み取らせましよう)。

「講義」と「自学自習」のバランスを取ることで学習効率は上がります。「自学自習」とは、即ち、「読むこと」と「書くこと」です。「読むこと」と「書くこと」の間にあるのが、「思考・判断」です。「読む力」「書く力」、「思考力・判断力・表現力」。これが、AI(もどき)時代を生き抜く力の基本です。さあ、読みましよう。さあ、書きましよう。(ここで言う「読むこと」とは、いわゆる読書(量)のことではありません。問いを考えるために必要な情報を教科書・資料から読み取ることです。)(部活動を引退してからの猛勉強で一気に「飛べる」か否か。その鍵を握るのが「読解力」です。)

人間は言語で思考します。AIは、人間の言語を理解できません。《高い目標×文武両道・文理両道×自学自習×協働×ICT》により《「不確実で複雑な時代」を生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」》を育成する【能力伸長・生田メソッド】の根底には言語能力があります。

全教科・科目で、「読」んで、「書」いて、あらゆる角度から、「文理両道」で言語能力を鍛えてください。「言語能力」即ち「思考力・判断力・表現力」即ち「生きる力」です。そういう力のある「確かな人(一流・本物)」が、AI時代を生き抜く人です。

.....

受験生の皆さん、年末を迎え、ストレスが高まっているかもしれません。健康とストレスの関係は、【①ストレスを味方にする、②ストレスに弱い、ストレスがない】の順番だというデータがあります。受験勉強とストレスの関係も同じです。ストレスを味方にしてください。「ストレスを味方にする」＝「自分を信じる」＝「できないことをできるようにする」ということです。できることを何回やっても、できないことはできるようにはなりません。自分を信じて、できないことにチャレンジしてください。「大丈夫、自分を信じて、必ずうまくいく!!!」先日、自らを励ます素敵な三々七拍子を教わりました。「できる、できる必ずできる!!」「克てる、勝てる、絶対勝てる!!」「なれる、なれる、必ずなれる!!」(ここまで)【大丈夫、自分を信じて、必ずうまくいく!!!】